

# 新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

## 第七十三話

### 「新冠の地名について(伝説と歴史)」

(解説含む)

新冠は昔、「シリペ」と言ったのだ。山の上でシリペ、シリペと鳥の声らしきものが聞こえたので神様がシリペとつけたのだ。

新冠という名は、昔、アイヌの人たちが小使(小遣い)取りをするために木の皮をはいで、釜に入れて網を染めていたということだ。

ある日、役場の人(和人)が来て「ここは何という村だ」と言ったそうさ。アイヌの人たちは、日本語で訊ねられたので何を言っているかわからず、「木の皮をはいだところだ」と言ったそうさ。

それで「ニカプ」(木の皮)という名前がついたそうさ。

#### 【解説】

この「シリペ」は、鳥の鳴き声を表わした音ですが、一説には「岬」という意味のアイヌ語で示されるようです。しかし、このシリペが新冠のどこの辺りを指すのかは特定されていません。新冠の古い言い伝えの中に登場する特別なアイヌ語だと思われまます。

昔、新冠には漁場がありました。漁場の人は漁網を強くするため、茶色く染めて使っていました。木の皮をはぎ、釜に皮と網を入れて煮るときれいに染め上がります。アイヌ

の人は、木の皮をはぐ仕事をして働くことがあったようです。カシワやハンノキの皮などを運んでいたという証言があります。ちなみに、江戸時代におけるアイヌ民族と和人の交易地であり、漁場も備えていた「新冠会所」では、シナノキの皮を使った縄を交易品として取り扱っていたことがわかっています。

新冠を指すアイヌ語地名として、「ピボク」と「ニカプ」が記録に出てきます。ピボクは「岩の陰」という意味で、判官館の岬付近を指しています。また、記録によつては「ピボク」と表わしているものもあります。しかし、この音は、密売をする人の意味である「ピイフク」というアイヌ語と似ており、印象が悪いためニカプに改められたという記述があります。

「ニカプ」はニレの木、特にオヒョウニレの皮を指すといわれています。現在、新冠におけるニレの木は、ハルニレの方が多く見られます。



明和にある「ふるさとの木ハルニレ」。昔、新冠のアイヌ民族は、ニレをはじめシナノキなど、木の皮をよく扱っていたといわれています。

## 戸籍の窓

9月21日～10月20日までの届出分(敬称略)

### ●いつまでもお幸せに

浅利 治樹 ♡ 村邊 奈美恵 東 町

### ●お誕生おめでとうございます

小笠原 ねね(誠 明美) 西泊津

笠寺 音愛(誠 真歩) 本 町

山田 優琉(拓未 美優) 明 和

### ●おくやみ申し上げます

釜蓋 一義 80歳 東 町

村上 富美子 94歳 朝 日

本郷 和彦 76歳 大狩部

川越 逸子 79歳 万 世

前山 千代子 81歳 北星町

草野 喜昭 71歳 古 岸

町田 かず子 89歳 東 町

### ●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係

☎ 0146・47・2112

## 冬の交通安全運動(11/13～11/22)が実施されます!

○子どもや高齢者をはじめとする歩行者の安全確保

○スリップ事故防止と全席シートベルト着用

○飲酒運転の根絶

静内警察署

火災・救急出動状況 ( ) かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	災害出動件数
10月	0件(1件)	27件(24件)	3件(3件)
6年1～10月	4件(4件)	238件(286件)	16件(26件)
交通事故発生状況 ( ) かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
10月	1件(0件)	0人(0人)	1人(0人)
6年1～10月	4件(3件)	0人(0人)	7人(3人)

## 人のうごき

(令和6年10月末現在)

人口	5,046人	(前月比 - 8人)
男	2,545人	(前月比 ± 0人)
女	2,501人	(前月比 - 8人)
世帯	2,826世帯	(前月比 + 2世帯)